

審判員県外派遣報告書

1	講習会名 (大会名)	第2回全日本社会人バスケットボール地域リーグチャンピオンシップ		
2	報告者	藤田 公介	所属連盟	U18
3	期 日	2020年2月14日(金)～17日(月)		
4	講 師	宇田川貴生、久保裕紀、玉木彰治、松本究、尾形美樹、宇田津浩史、針生淳男		
5	参加者	各都道府県1名(原則JBA公認A級以上)		

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲ ー ム 雑 感
1	2月15日	予選リーグ Camellia - 九州電力	U2	CC: 廣瀬俊昭(神奈川) U1: 稲田篤(鳥取)	九州電力のスピードとシュート力が上回り、勝利。
2	2月16日	予選リーグ 宮田自動車 - 三井住友銀行	U1	CC: 望月公平(広島) U2: 田中竜(鳥取)	堅い守りとシュート力が上回り、三井住友銀行の勝利。
3	2月17日	準々決勝 黒田電機 - タツタ電線	U1	CC: 柳田雅人(山口) U2: 中村達哉(岡山)	外国人選手を中心に得点を伸ばした黒田電気が勝利。

7	審判会議・ミーティング内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等				
<p>①研修会</p> <p>○玉木氏: 3POメカニクス ベーシックメカニクスの説明と習慣化すべき項目の話があり、ファウルカウント、スローインの再開場所、選手にボールを渡す前にコートやクルーの状況の把握など、当たり前のことを意識して習慣にしていける必要がある。</p> <p>○松本氏、尾形氏: プレイコーリング ・POCのコンセプト: 「身体のどの部分(POC)が何をしたのか(NATURE)」 ・TFの4つのポイント: ボールステータス、場面にフィットしているか、エフェクティブ、ディフェンダブル ・AOSの2つのコンセプト: Drive to the basket → ボールギャザー * ギャザーからの一連のプレイもAOS。Oステップなど要注意。 Jump stop&shot → アップモーション * ギャロップステップなどはギャザーがAOSでは無い ・リップスルーはAOSでは無い。ボールを横から横へ動かした時に、伸びたDFの腕との接触</p> <p>○宇田川氏: インテグリティ レフリーが考えなければいけないことは、選手ではなく、観客。レフリーを侮辱する行為に対して何も対応していない姿を見せない。観客がどう感じているかを、我々は考えていかなければいけない。きちっと基準を示して、それを継続していくこと。情報が世の中に出ているので、観客も、レフリーは対応してくれるだろうと期待している。</p> <p>②事後ミーティング</p> <p>(1) デリバリー力 何かが起こった時に、クルーで集まり、出した結論を選手やチーム、観客にしっかりと伝える力をより向上させる必要がある。例えば交代できない時限でTOミスでブザーを鳴らした時、TFやUFを宣した時など、それに対する処置・次の再開時間・場所をはっきりと分かり易く伝え、スムーズに試合を進める力を身に付けなければならないと思った。</p> <p>(2) コミュニケーション力 選手やコーチとのコミュニケーションの取り方を工夫する必要がある。自分が判定したこと、感じたことを意固地になって伝えるのではなく、選手やコーチの意見、感じ方にも耳を向け、決して迎合するのではなく、それを素直に受け止めることで、よりスムーズなやり取りができる場面も多くなる。選手やコーチを敵と考えるのではなく、一緒に価値の高い試合を作っていく仲間として考える必要がある。しかし、その中で価値を下げるような発言、行動があった際には、粛々とTFを宣することも大事である。</p> <p>(3) チェックイン・チェックアウト 自分の課題でもあったチェックイン・チェックアウトをトライした3日間であった。特にC側にいる時にT側からボールが展開されたケースで、Cのチェックインをどのようにクルーに示すのか。C側のコフィンコーナーで起こったダブルチームの時もクルー間でのチェックイン・アウトが連携したおかげで、スムーズにローテーションを行うことができた。</p> <p>(4) POC ゲームレベルを考えると、吹かなくてもいい判定があり、1つ1つのプレイのPOCを精査するのと、RSBQを見極める力を高めていく必要がある。</p> <p>最後になりましたが、今回国内トップレベルの全国大会に派遣して頂きまして、香川県バスケットボール協会・審判委員会の皆様には感謝申し上げます。自分自身の成長ももちろんですが、香川Hに向けて一丸となって頑張れる環境づくりにも努めていきたいと思っております。</p>					